

## 2007年 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン 第8戦 RACE REPORT

<第8戦・ツインリンクもてぎ>

10月20日・21日

<観客動員数>

20日 / 5,600人・21日 / 15,500人

<TV放映> フジテレビ「モタスポS!」レース終了8日後月曜日 25:10-26:10

### □D o C o M o TEAM DANDELION RACING

ドライバー (#40) ビヨン・ビルドハイム (#41) ファビオ・カルボナーネ

チーム総監督 村岡 潔

チーフエンジニア (#40) ロブ・アーノット (#41) 吉田 則光

### □HARD

シャーシ LOLA B06 / 51 FN06

エンジン HONDA HF386E V8 3000cc

通信機器 NTT D o C o M o FOMA

### □M A I N S P O N S O R

株式会社NTTドコモ NTT D o C o M o

株式会社NTTドコモ関西 NTT D o C o M o 関西

株式会社NTTドコモ東海 NTT D o C o M o 東海

株式会社NTTドコモグループ NTT D o C o M o G r o u p

### □S P O N S O R

田中オートサービス TANAKA

株式会社和光ケミカル WAKOS

京都機械工具株式会社 KTC

山田辰株式会社 THE MAN SPIRIT

パーカル株式会社 PERCUL

株式会社親和 R i c h

有限会社マジックスクエア M A G I C S Q U A R E

レカロ株式会社 R E C A R O

エイティーエス株式会社 A T S

玉置商事株式会社 T A M A K I

モトローラ株式会社 M O T O R O L A

株式会社フュートレック F U E T R E K

三菱電機株式会社 M I T S U B I S H I

株式会社ルネサステクノロジ R E N E S A S

株式会社ソフトウェアクレイドル C R A D L E

シャープ株式会社 S H A R P

株式会社EXR J a p a n E X R

アーム株式会社 A R M

株式会社エイチアイ H i

## フォーミュラ・ニッポン 第8戦 <予選>

10月20日(土) ・天候/晴 ・出走台数/21台

**ビルドハイム選手、手応えありの1回目セッティングを2回目に煮詰め切れず10位。  
一方のカルボーネ選手もセッティングの方向性を午前午後を通して掴み切れず17位。**

金曜日の夕方から降り始めた雨も朝方にはやみ、フォーミュラ・ニッポン第8戦の予選は澄みきった秋晴れが広がる好天の下で行われた。なおビルドハイム選手は3位本山選手のエンジン交換ペナルティーでワンランクアップし9番グリッドからの出走となった。

### ●公式予選1回目(10:30〜45分間 COURSE/ドライ)

レコードライン上はドライに回復したものの、コースの所々が完全に乾き切っていなかったためウェット宣言が出され定刻通りに予選1回目が始まった。チームはスタート直後にコースインした他のマシンのタイムを参考に路面状況を判断。ビルドハイム選手、カルボーネ選手ともにピットでの待機を指示した。そして予選開始から約10分が経過したところでまずはカルボーネ選手がレインタイヤを装着してコースイン。路面とマシンの状況を確認しピットに報告。と同時にビルドハイム選手がレインタイヤでコースインしセッティングの調整を行った。

中盤には路面もほぼ乾き、両選手ともスリックタイヤを装着し本格的な予選アタックを開始。時間が経つにつれ刻々と変化する難しい路面状況の中、セットアップ作業は続き、ビルドハイム選手は7番手、カルボーネ選手は19番手で午前中の予選を終了した。

### ●公式予選2回目(14:15〜45分間 COURSE/ドライ)

気温22度、路面温度28度。朝からの好天で完全なドライとなった予選2回目。午前中のセッションでセッティングの方向性に手応えを感じたビルドハイム選手は、さらにセッティングを煮詰める作業に集中。一方、午前中のセッティングに違和感を持ったカルボーネ選手は、その方向性を大きく変えて午後の予選に挑むことになった。

両選手とも午前中に使用したタイヤを装着し予選開始と同時にコースイン。そして予選開始15分後にビルドハイム選手、カルボーネ選手ともニュータイヤを履いてのアタックに入った。ビルドハイム選手のタイムは1分34秒408、その時点での6番手。カルボーネ選手も午前中のタイムを上回る1分34秒694をマークした。さらに残り6分となったあたりで両選手とも最後のニュータイヤを投入しタイムアップを狙ったが、結果的にビルドハイム選手が10番手、カルボーネ選手が17番手と、満足のいくグリッドを得ることなく明日の決勝を迎えることとなった。

★第8戦・総合予選正式結果 40/10位(出走21台)。ベストタイム/1分34秒159  
41/17位(出走21台)。ベストタイム/1分34秒635

## フォーミュラ・ニッポン 第8戦 <決勝>

10月21日(日) ・天候/晴 ・出走台数/21台

**意表を突くノーピット作戦で勝機を見出すビルドハイム選手、7位2ポイント獲得。  
カルボーネ選手は1周目の接触で緊急ピットイン。その後好走を見せるも18位完走。**

第8戦ツインリンクもてぎはストップ&ゴーの多いテクニカルなコースを52周、約250kmの走行距離で争われる。ピットインの義務はなく、チーム戦略はワンピットかノーピットの選択が別れるところである。ただホンダエンジン陣営に関しては燃費が若干不利とされているためワンピット作戦をとるであろうと予測されていた。

### ●決勝 (10/21 14:34〜 COURSE/ドライ 52周)

気温23度、路面温度30度。秋晴れの青空が広がる絶好のレース日和の中で決勝がスタートした。ビルドハイム選手はスタートダッシュで痛恨のミス。順位は落としたものの、その後のペースは非常に安定したものとなり前を行くクルム選手を追い続けた。カルボーネ選手も1周目、5コーナーで平中選手と接触。フロントウイングにダメージを負い、いきなりのピットインを余儀なくされた。最後尾にポジションを下げたが、ピットアウト後はトップグループに劣らないタイムを刻み攻め続けることになった。

今回のレースでノーピット作戦を選択したビルドハイム選手のマシンはフルタンクでガソリンを搭載。レース序盤のビルドハイム選手は非常に重い状態のマシンで順位を守り続ける好走を見せてくれた。そしてレース中盤に差しかかった辺りからワンピット作戦のマシンが続々とピット作業に入り、順位を徐々に上げていく。しかしながらマシンの状態は厳しく、重いマシンを必死にコントロールして38秒台をキープ。36周目にはビルドハイム選手は小暮選手、デュバル選手に続き3位までポジションを上げた。カルボーネ選手はワンピット作戦を選択していたため給油とタイヤ交換のためにピットイン。その後37秒台のハイペースで前車を猛追した。

そしてレース終盤、ニュータイヤ装着のマシンが次々とビルドハイム選手の背後に。巧みなブロックでポジションを死守するという苦しい戦いが続いた。しかしタイヤ、燃費ともに厳しくペースが上がらず、38周目にトレルイエ選手、42周目にはロッテラー選手にかわされ5位に。その後、松田選手とのバトルが9周にも及び、51周目にととうかわされた。しかも松田選手とのバトルで接触したタイヤがスローパンクチャーを起こし、後続のクインタレッリ選手にもかわされてしまい7位でチェッカーとなった。カルボーネ選手も諦めることなく攻め続け18位完走でフィニッシュした。

★第8戦・決勝正式結果 40/7位 (21台中) 。 ベストタイム/1分38秒291  
41/18位 (21台中) 。 ベストタイム/1分36秒884

#### ■ドライバーズコメント

ビルドハイム選手「今回はチームと綿密に話し合いノーピット作戦を選択。結果的に完走を果たせたことで、この作戦が間違っていなかったと確信しています。しかしスタートでのミス、そして予選順位が悪かった事で良い成績には結びつきませんでした。

レースではマシンのフロントタイヤが激しく磨耗し、レース終盤でマシンのコントロールが非常に難しい状態になりました。最終戦はフロントタイヤの磨耗対策と、予選でのポジションアップをしっかりと組み立てて挑みます。」

カルボーネ選手「いきなり1周目で平中選手と接触してしまい順位を落としてしまいました。しかし、今回はレース中のマシンは非常にバランスが良く、トップグループと同等のタイムを連続して刻むことができ、トップカテゴリーのレーサーとしての自信に繋がりました。次戦は最終戦ですが、この1年で培った経験をすべて発揮し必ず良い結果を残したいと思います。」

#### ■吉田則光監督コメント

「今回のレースはビルドハイム選手がノーピット作戦、カルボーネ選手がワンピット作戦でレースに挑みましたが、ビルドハイム選手はスタートでミス、カルボーネ選手は接触によるノーズ破損があり、結果を出すことはできませんでした。戦略的にミスは無かったと思いますが、とにかく予選で上位にいないければ望む結果はついてきません。次戦が今シリーズ最終戦となります。前回の鈴鹿戦が良かっただけに、それ以上の成績で締めくくれるよう、チーム一丸となって挑みます。」